

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名 グループホーム なぎみ苑

日付 平成20年1月10日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 老人保健施設介護実務経験6年、介護支援
専門員経験6年

[自主評価結果を見る](#)

[評価項目の内容を見る](#)

[事業者のコメントを見る\(改善状況のコメントがあります!\)](#)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

午前中、地域の幼稚園児10数人が特養ホームを慰問に訪れ、グループホームの利用者も、全員園児の歌や遊戯、グループ毎の得意技を楽しんだ。最後には利用者の中に入って、肩叩きをしてくれ、この時ばかりは満面笑顔で園児の来訪で心が癒されたことだろう。地域の方々が、慰問やボランティアで特養を訪問してくれる機会に、一緒に楽しめるのは特養併設の強みである。

このホームから見る那岐山や周辺の田園風景は絶景である。「2階に上がったらもっともっと良く見えるよ」と昼食の時、利用者が教えてくれた。その利用者2人が昼食の片付けが終わって、「2階に行きませんか」と2階の地域交流センターに誘ってくれた。1階から見える景色や風景とは比較にならないくらい絶景で、田畑を見ながら、昔食べた「はったい粉」「干したさつま芋」「黒豆の枝豆」「さつま芋やかぼちゃの茎や花」等を食べた話に熱中し、時間の経つのも忘れる程だった。

このグループホームの住人は、午前中は話をしたり、塗り絵をしたりして、個人個人でリビングルームで生活している。また、昼食の手伝いをして調理に参加したり、洗濯物を畳んだりして家事の手伝いもしている。午後になると、少々不穩の人が出てくる人も居て、動きが激しくなる人も居て、職員の対応も忙しくなる。

このホームに来てから、身体の状態が改善できたことに「排便の改善できた人」が4人いることである。便秘がひどい人に、別の施設で体験した職員の話聞いて、キューピーの経管栄養剤のおまけに付いていた「アップルファイバー」をお茶に入れて飲んだら便秘が治り、現在は毎日から2日に1回の自然排便ができるようになった。便秘していた苦しみから開放されて、本人も職員も嬉しくなったことを聞かされた。今は常備薬として購入しているそうだ。

「人間は本能と本能のぶつかり合いで心が研ぎ澄まされる。そこから本当の信頼関係が生まれてくる。認知症ケアは言葉だけではすまされない。職員と利用者間の言葉には、この地域性のある口調が、人と人との触れ合う自然さがにじみ出ている」と主任が口にした。このホームで職員が利用者と接している色々な場面で感じられた「一期一会」である。

特に改善の余地があると思われる点

1. 介護記録は誰のために書き残しているか？ 利用者介護した証であるし、利用者から発した言葉(気持や心配、希望や不安)である。これからの主要な部分をメリハリのある記録に残しておいて欲しい。又、利用者の喋った言葉から、その人の人生歴などの情報を発信していることもある。これらはアセスメント情報として記録に残しておきたい。職員同士この記録を見て、付記していくと、一人ひとりの財産が残る。
2. 毎日繰り返しの行動は、できるだけ符号化(定義は必要)して簡単な記録として、職員の行動の証しにしておけば良く、1枚の用紙で1カ月分の事が一目でわかるようにすれば簡単に効率的な記録となるだろう。

2. 評価結果（詳細）

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：母体と同じ理念「一期一会」を掲げており、職員全員で共有化している。</p> <p>2. 全体的に見て…：人との出会い大切に、心からのもてなしをしたい。人は毎日が一期一会である。人だけではなく、自分との出会いもある。今日の景色、今日という日との出会いにも置き換えることができる。人との出会いは、精神を集中して丁寧に、大切に、誠意で接すると、実は日常でも喜びと充実感が満ちてくる不思議な力が人間にはあると思う。</p> <p>この理念を実現するために、「認知症の人に対する時の基本12項目」をつくり、その一つ一つを実践している。「人間性をよく見つけ、本能と本能とのぶつかりから本当の信頼関係が生まれる」と主任は語っていた。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：職員一人ひとりの行動や声かけ等が利用者に心理的に与える影響を考えて接しられるようにしたいと考えている。利用者が精神的に敏感な人もいますので、それぞれの人に合った接し方は大切である。職員研修や個別指導で改善していただきたい。</p> <p>2. 全体的に見て…：特養ホームの廊下続きにあるホームである。ホームはグループホームの特長もリビングルームや居室にも家庭的な雰囲気を出している。居室の造りは中庭に接した面には障子があり、畳敷きとフローリングの2通りの部屋があるが、この地域の人には住み易い部屋となっていると思う。リビングルームからは那岐山が見え、絶景である。生活空間の雰囲気は、そこに住んでいる利用者と職員の人間性と共同性が作り上げていくものだと思う。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：介護計画作成と活用は、ケアの基本となるもので、活きた計画でなければならない。色々と改善を繰り返しているが、家族にもしっかり参画してもらって、より良い計画を作ろうとしている。その一貫として利用者の自分史も充実させて、計画や日常のケアのきっかけ作りをしたいと考えている。是非一歩一歩着実に実現して欲しい。</p> <p>2. 全体的に見て…：主任を中心に全職員でケアについて勉強を続け、質の向上に努力しているが、2人の特異な行動をする利用者が居て、その人に対する症状の改善、あるいは落ち着きに苦慮している。9人の利用者の共同生活に馴染めないのが、職員もそれなりに対応しているが、もう少し専門的な診断も受けてどのようにケアしたら良いのか、ホームでの生活に適するよう改善出来るのかも総合的に考えてみる必要があるのかもしれない。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：特養ホームと併設して、管理者も特養の苑長が兼務している。日常の業務については、主任に任されているところが多いが、どこまでグループホームの独自性が出るか。特養と併設しているメリットを活かしながら、グループホームの利用者と共に作る調理と食事をする時間が、一番の楽しみであるに違いない。職員の適正配置と共に是非実現して貰いたい。</p> <p>2. 全体的に見て…：このホームは母体の特養に併設されているので、特養のホールで行われる行事や慰問に参加して楽しめる事、地域との交流が出来る事、看護師長の援助を受けられる事、防災訓練も一緒にする事、食材や献立を受けられる事、リハビリ施設が利用出来る事等メリットも受けており、家族にとっても先行きを考えれば安心出来ると思う。その上にとって、グループホームは普通の生活の場の実現である事も理解してもらいたい。</p>		